

神奈川ネットワーク運動は、地域政党です。生活の課題は政治に直結しています。国の政党が、地方の政治までコントロールするのではなく、多様な地域政党が政策を競い、住みやすいまちをつくる社会をめざします。



〒216-0003 川崎市宮前区鷺沼 4-1-15 片山荘 102 TEL/044-888-1558 FAX/044-948-9828 URL <http://miyamae.kgnet.gr.jp/>

省エネ・節電に取り組み

エネルギーシフトを変える

◆ 機器の交換で 暗くない節電

神奈川県では、節電効果の高い蛍光灯の使用を進めようと県内自治体に働きかけしてきました。ネットも参加して「神奈川県エル計画」ですすめているのは、初期費用がかからないリース方式によるFHF1灯式蛍光灯（以下、F H管）への交換で省エネ効果を生み出すものです。

川崎市でも、公共施設の電気を変えようと考えた市民が、市庁舎をはじめ公共施設でのF H管のリースによる導入を求める陳情を市議会に提出し、また学校施設での交換を求めた陳情を教育委員会にも提出しました。

どちらの審議でも、省エネ節電は必要だがリース契約に対する疑義が出され、議会議環境委員会では継続審査、教育委員会では不採択となりました。

◆ もっと柔軟な対応を

学校施設は、新設校ではF H管、空調はガスヒートポンプ方式が導入されていて節電への取り組みを始めていること、照明については、耐震を進めるときに文部科学省の補助金を受け、照明設備も変えていく予定であることが説明されました。リース方式については、途中解約でのリスクがあるのでと委員からの意見がありました。

川崎市では全く取り上げられないリース契約ですが、神奈川県をはじめ世田谷区でも、区長が積極的に取り組んでいて、効果を挙げています。初期費用がかからないことからお得な節電と言われているのです。

電力についても川崎は既にPPSからの購入をすすめています。売電についても東

電だけでなく買い取り価格の高い事業者と契約するなどの柔軟な対応が、今後はいっそう求められます。

原子力発電に頼らない暮らしを継続するために、市民ができることを実行し、市が施策として実現すること、そして事業者の努力をすすめることが必要です。（渡辺あつ子）

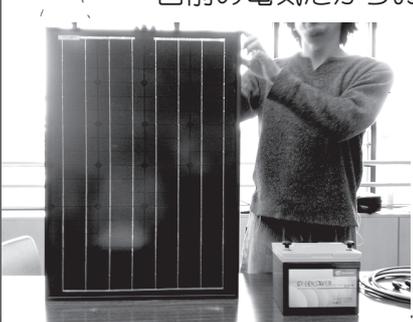
10月30日、ネット青葉と子ども未来プロジェクト共催により横浜市青葉区で開催された、藤野電力の小田嶋哲也さんによる「ミニ太陽光発電システム」のワークショップに参加しました。

作業は、新聞1面よりやや大きいソーラーパネルにコントローラー、バッテリー、インバーター等をつなぎ、約40分で完成しました。パネルの出力は50W、バッテリーの容量は456Whで、これでもノートパソコンなら日に5時間ほど使用も可能だそうです。この場で電気を「つくりためてつかう」自前の電気です。屋根の上に大きなパネルを設置して電気を電力会社と売買するシステムとは異なる、コンパクトで持ち運びもできる独立型なのです。

藤野電力は、相模原市の旧藤野町を拠点に、脱・依存、しなやかなライフスタイルへの移行をめざす地域活動（トランジション藤野）の中から、東日本大震災をきっかけに始められました。消費自体を抑えることと自立分散型のエネルギー供給が基本的考えです。

目の前の小さな太陽光システムは、これを生活に組み入れて広がる「できる」「変えられる」ことへの創造力を刺激する、大きなパワーを秘めたものでした。（喜多 麗）

Mini太陽光発電システム
自前の電気だからおもしろい



「つくる・ためる・つかう」
ミニ発電は誰でもつくれます